

Title ゴミ出しルールが守れないワケ



Theme 02

なまざまな『違い』 理解できていますか?



行動目標 1

市民が日常的に多様性を「知る」、「触れる」機会をつくります

行動目標 4

ご近所の日常的なコミュニケーションを促します

ゴミステーションに出されるゴミで
分別が守られていないものがある…。
誰かしら。
けん太くんのお母さんは
いつも気になっています。

さまざまな

『違い』を

知ることから

地域には、子どもから高齢者、認知症の人、障がいのある人、ひきこもりの状態にある人、外国人など、さまざまな人が暮らしています。住み慣れた地域で、安心して、心豊かな暮らしを送るためには、さまざまな考え方や生き方を、お互いに認め合い、尊重し合えることが前提となります。

それぞれの違いや特性、変化に触れること、それぞれが「違う」ことを理解することで、お互いを認め合うきっかけになるはずです。



さまざまな違いを知り、認め合うために
何ができるだろう？

地域福祉の
アドバイザー 手島先生からのコメント

気づかいと工夫で 暮らしやすいまちに

地域共生社会づくりが求められる今日、高齢者、障がい者、生活困窮者、外国人など様々な立場や属性の人たちがお互いを理解し合いながら地域でともに暮らすことが求められています。ゴミ出しのルールもみんなが理解できるような工夫ができているかを点検することで、いろいろな人が暮らしやすくなることでしょう。

さくらさんがゴミステーションを見て感じたモヤモヤがお母さんとの会話により変わったように、住民の間でいろいろな情報を共有することでお互いのことを知り、みんなのモヤモヤが晴れるようになっていけばいいですね。



手島 洋先生

県立広島大学 保健福祉学部
人間福祉学科 講師

市民一人ひとりで心がけること 身近な人たちと一緒にできること

- ・さまざまな個性を持った人たちを理解しましょう
- ・「こうしたい」や、「こうなりたい」を伝え合いましょう
- ・身近な範囲内で認知症や障がいのある人のことや、地域福祉活動について、話す機会を持ちましょう

地域全体で取り組むこと

» 地区・地域

- ・日ごろの活動を通じて、さまざまな状況にある人たちへの理解を深めましょう
- ・これまで取り組んできた活動に福祉の視点を取り入れてみましょう
- ・生きづらさを抱えた人が地域に暮らしていることを知り、受け入れましょう

行政が取り組むこと

- ・身近な場でひきこもりや認知症などについて「知る」、「理解する」機会をつくります
- ・人権教育を推進します
- ・支え合いやソーシャルインクルージョン（全ての人々を包み、支え合うという理念）の理解など、地域福祉の視点を取り入れた主催事業を実施します
- ・「やさしい日本語」を普及啓発します